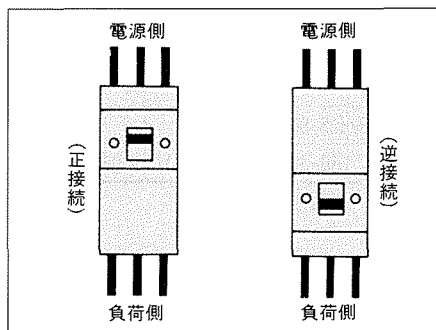


使用上のご注意

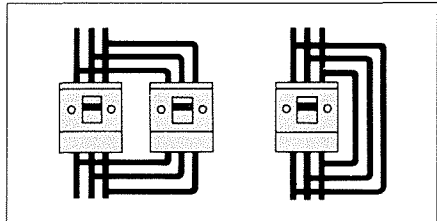
逆接続

漏電遮断器に「電源側」と「負荷側」との区別がある器種は逆接続ができません。逆接続不可の器種において逆接続をいたしますと、漏電遮断器が動作した場合、トリップコイルの焼損等事故につながりますのでご注意ください。



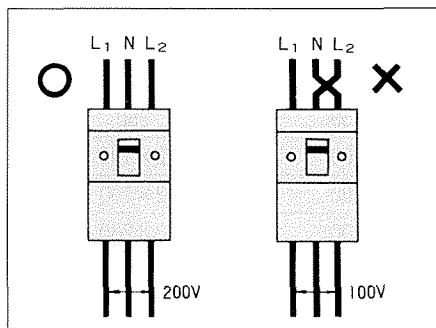
並列接続、バイパス接続

並列接続、バイパス接続は漏電遮断器が誤動作し、トリップコイルが焼損しますのでご注意ください。



単相3線式回路への接続

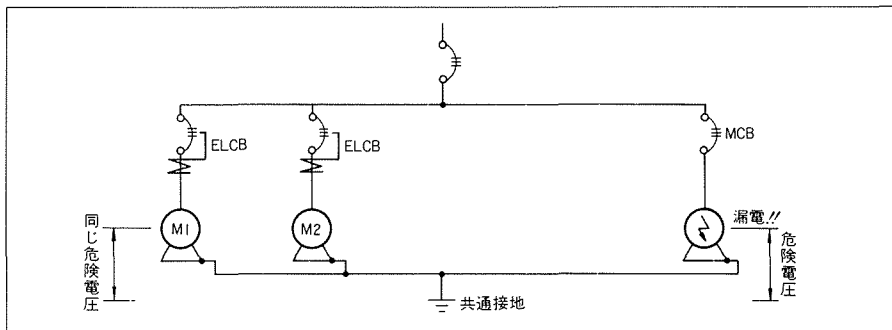
単相3線式回路へは単相3線式専用漏電遮断器はもとより三相3線式漏電遮断器でも適用できます。単相3線式回路での注意点は電圧線相互間の電圧と、中性線と電圧線間の電圧とが異なる点です。漏電検出装置の電源を遮断器内部において左右極から、とっておりますので適切な電圧(200V)がかかるよう接続しなければ、正常な動作は行いません。ご注意ください。



共通接地

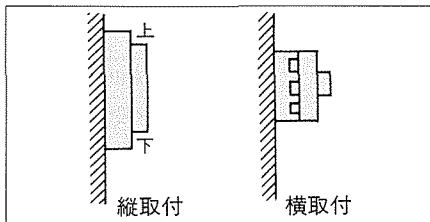
複数の電動機回路等において、漏電遮断器を取付けた電動機と、取付けない電動機のアース線を共用にいたしますと、万一漏電遮断器を取付けていない方の電動機で漏電があった場合、その対地電圧が共通接地線を通じて、漏電遮断器のある方の電動機に

も危険電圧が生じることになります。この時は、その漏電遮断器は動作しませんので、大変危険です。このように共通接地をとった機器については、全回路へ漏電遮断器を取付けなければなりません。

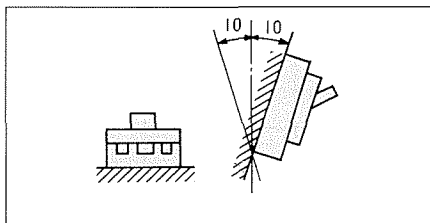


取付方向

■良い例



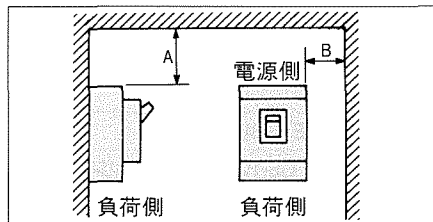
■悪い例(完全電磁形)



■ご注意

遮断器は鉛直面取付が基本です。熱動形、熱動電磁形のもの、その他の取付面でも問題はありません。完全電磁形のものにおいては、鉛直面取付(10°C以内)以外の取付では特性が変化しますので、ご注意ください。

アークスペース



フレームサイズ	最小寸法(mm)	
	A	B
75AF以下	30	25
100～250AF	50	40
400～600AF	80	50
800～1200AF	150	100

■ご注意

遮断器が大電流を遮断したとき、電源側の排気孔からアークガスが噴出します。この排気孔のすぐ近くにしゃへい物や導電材がありますとこの部分でアークによる短絡や、地絡事故を起す可能性があります。このため遮断器取付にあたっては表に示すアークスペースが必要です。

JIS C8371 常規使用状態

- 漏電遮断器は重要な保安器ですので性能を確保するためにもJIS C8371-1980で定められた常規使用状態の範囲内でご使用ください。
- 周囲温度は-10～40°Cの範囲内

- 標高は2000m以下
- 相対湿度は45～85%の範囲内
- 異常な振動及び衝撃を受けない状態

